

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
(Tel) 075-574-4118

京都橘女子大学図書館 田北十生気付
(Fax) 075-574-4124

春の例会及び研究集会企画について

(1) 春の例会について

- ・当初の提案のように文化的要素をとり入れた内容とする。
- ・講師：安齋育郎氏（立命館大学国際平和ミュージアム館長・国際関係学部教授）
- ・テーマ：「図書館と私」（仮題）
 - * 専門の放射線防護学、平和学さらにはマジックまで、先生が関わってこられた様々な分野と図書館との関わりを講演。
- ・時期：3月入試シーズン明けにする。

(2) 研究集会の企画についてご意見・ご希望を！

支部委員会では研究集会の企画について検討を開始しました。現在下記の4案が出されています。案の内容的なものは、6ページの第3回支部委員会の報告に書いていますが会員のみなさんからも積極的な提案を委員会として期待しています。

<A案>「書店システムの可能性」 <B案>「欧米の図書館事情をさぐる」
<C案>「大学図書館職員論のその後」 <D案>「大学図書館のHPを検証」

上記企画案内容についてや別の企画案などがありましたら、是非委員に提案をお願いします。提案はイメージ的なものでもかまいません。お近くの委員、又は編集担当へメールあるいは電話でもかまいません。

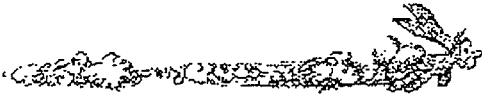
さらには、メーリングリスト「yurikamome」でアイデアを討論するのもいいと思いますが、出来るだけ全ての会員のみなさんが積極的に参加してみようと思うようなものが考えられればベストだと思います。



目次	春の例会・研究集会企画……………1頁
	自著紹介……………2頁
	私のインターネット活用術(1)……………3頁
	第3回支部委員会の報告……………5頁
次	連載小説(12)リュウ……………7頁
	数珠つなぎ(32)……………8頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで
編集気付 (kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで

『聴覚障害者も使える図書館に』の 改訂版刊行！ — 自著紹介 —



松延秀一

小生は以前、本紙上で『障害者サービス』（日図協）の自著（？）紹介をしたが、この度、上記の冊子を刊行したので紹介したい。

自著とはいっても、責任者は日本図書館協会障害者サービス委員会聴覚障害者に対する図書館サービスを考えるワーキンググループ編であり、小生はその一員として執筆・編集を行ったわけである。余りにも長い名前なので、聴覚障害ワーキンググループと略したりしている。

改訂版とあるように初版が勿論あり、こちらの方は1986年、IFLA（国際図書館連盟）東京大会の直前に刊行された。障害者サービスといえば視覚障害者サービス中心のイメージがまだあったことで、初版の刊行は、障害者サービスの内容を広げるのに一定の役割を持ったものと思われる。

さて、改訂版は初版以来の12年の成果を吸収しつつ大幅に増補された。しかし、本紙の読者は初版を見たこともない人が多いであろうから比較は省略し、直ちに内容に移る。

第1章は「聴覚障害者」。聴覚障害者とはどんな人なのか、が簡単に叙述される。

続いて、第2章は「聴覚障害者と接する図書館員のために」。つまり、どうやってコミュニケーションを成り立たせるか、について説明される。とはいっても、現に目の前に聴覚障害者がいないと、なかなか実感しにくいかもしれない。

ただ、京都地区の大学は、国公私立を問わず、比較的聴覚障害者を受け入れているので手話で話したり、耳掛け式補聴器を付けていたりする学生を見たことのある人も多いのでは……？

京大では小生がかつて学生として在学、そして今は総合人間学部図書館で勤務しているので、いやでも目にすることになるが……。

第3章は「聴覚障害者への図書館サービスを進めるために」と題し、具体的なサービス体制の整備のやり方について、主として公立図書館を念頭に置いて説明している。

第4章は「子供へのサービスについて」なので、ここでは省略。

第5章は「サービスをさらに広げるために」として、大学図書館、高齢者サービス、司書雇用の課題について簡単に述べている。短い章ではあるが必読であろう。

最後には関連文献や付録があり、参考になろう。小生の翻訳文もある。

定価は税別800円、是非ご一読願うとともに、ご自分の職場では、どの位の数の聴覚障害学生が在籍していて、図書館として何が出来るのか検討していただきたい。

なお、秋田で開かれた全国図書館大会の障害者サービス分科会でも改訂版の紹介があったほか、午後のシンポジウムでは、小生が聴覚障害者サービスの基本について説明した。

大図研でも、新潟県長岡市で開かれた大会で初めて障害者サービスの分科会が持たれた。画期的なことと思う。（小生も参加した）。次の東京大会でも障害者サービス分科会の設定を望むとともに、手話通訳等の手配もお願いしたいものである。（その分の費用はかかるけれど……）

（まつのぶ しゅういち 京都大学総合人間学部図書館）

私のインターネット活用術 (1)

気分次第のはちゃめちゃ活用法!



田北十生

支部報で今月号より「私のインターネット活用術」を連載で(たらいまわしで)掲載することが、支部委員会で決まり、その第1号(振り出し)は、私、田北が指名されました。その理由は、私がインターネット活用に長けているからではない、実際はそのまったく逆で「はちゃめちゃ」な活用しかしていないからである。どうして、そういう人物が第1号に選ばれたかといえ、これがまったく私にとってはけしからん理由で、①最初がはちゃめちゃなら、後に続く人が安心して書ける。②記事の内容が、段々良くなっていく、ということだそう、いわば支部長の生け贄的ご指名なのである。

そんな訳で表題を「気分次第のはちゃめちゃ活用法」としましたが、後に続く方は、しっかりとした活用術を掲載して下さい。

私は、インターネットの活用の柱は①ホームページによる情報交換・交流 ②メールマガジンの発行 ③Eメール(メーリングリストも含む)だと思っています。今回は取りあえず①のホームページについて報告します。

(1) ホームページの活用

①「見る」ホームページは、まず見ることから始まる。日本でもホームページはねずみ算の様に増加していますが、海外のそれに比べるとどうもデータベースを持ったものが少ないように思われます。そういう意味では、各大学のOPACの公開が進んでいるのが、まあ、一番のデータベースかな?と思います。私は確かに図書館の職員ではありますが、かといって図書館関係のページばかり見ているわけではありません。

ここでは、自宅での活用ということで話を進めますが、その人がどんな活用をしているかは、その人のパソコンのブックマークを見れば分かると思います。従って、ここで私の自宅のマシンのブックマークの一部を独断で選んで紹介します。

* 楽園

<http://to.ma.to/cgi/yojigoka.htm> (お笑いの部屋)
<http://www.asahi-net.or.jp/~BX7S-YMMK/joke.htm> (世界幼児語化計画)

* 電子出版

<http://www8.big.or.jp/~noel/mbox/> (伝言ボックス・システム)
<http://www.jmail.co.jp>
<http://www.ifnet.or.jp/~your/JISATSU.htm> (自殺するの?)

* オンライン放送局

<http://www.comfm.com/sites/rdirect/indexa.html> (all radio broadcasting live on internet)
<http://www.netradio.net/> (netradio network-listen 150 music channels)
<http://wmbr.mit.edu/stations/bc.html> (radio bitcasters)
<http://online-today.com/netcast.html> (online today personal netcast)

* パソコン・ネット便利帳

<http://www.people.or.jp/~victor-e/bn/> ([base band]バックナンバーリスト)
<http://ac3.aimcom.co.jp/~fkmt/webmail.htm> (Help! Web Based Mail Service)
<http://www.raidway.or.jp/~wise-tj/> (こちら Web 110番)
<http://www.people.or.jp/~victor-e/baseband.html#Article2> (online windows pc magazine[base band])
<http://www.big.or.jp/~roadist/netiquette/> (ネチケット千夜一夜)

* 経営(事業経営者へのノウハウ)

<http://www.roumu.com/index.html>

* 便利帳 (エンジン付き)

<http://www.nef.or.jp/> (NEF)
<http://www.ops.dti.ne.jp/~asa-yan/> (ねずみ講バスターズ)
<http://member.nifty.ne.jp/yosikun/index.html> (無料生活相談センター)
<http://www.kagari.com/hello/> (hello)
<http://www6.big.or.jp/~beyond/akutoku/> (悪徳商法? マニアックス)
<http://www.excite.com/>
<http://mag2.tegami.com/mag2/> (インターネットの本屋さん『まぐまぐ』)
<http://www.hf.rim.or.jp/~daiji/menu.html>
<http://www.bekkoame.ne.jp/~spaceinn/> (50代からのシニアサークル紹介)
<http://www.japanweb.ne.jp/>
<http://www.ne.jp/asahi/stellar/scenes/>
<http://www2m.biglobe.ne.jp/~bit/index.htm> (A Little Bit)
<http://www.click.or.jp/~kingyo/muryoh/muryou.htm> (無料サービス案内)
<http://www.people.or.jp/~victor-e/baseband.html> (PCマガジン)
<http://member.nifty.ne.jp/kenkou/index.html> (Natural Beauty)
<http://www2k.biglobe.ne.jp/~onda/chosaku/chosaku.htm> (著作権)
<http://www.studentadvantage.com/qp/d/kisses/> (student advantage: Qpid : kiss)
<http://www.ntt.co.jp:80/japan/index.html> (Japanese information)
<http://www.ifnet.or.jp/~daruma/Links.html>
<http://www.magazine.co.jp/magazine/home.html>
<http://www1.islandnet.com/~luree/fanmail.html#Models>
<http://www.collegebound.com/keypals/>

* 観光

http://web.kyoto-inet.or.jp/people/tomo_n/ (京都選集)
<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/6129/> (ぶらり散歩道)
<http://www.m21.or.jp/fame/>
<http://www.eco.shimane-u.ac.jp/~yamamoto/net-job/yakudati.html>
<http://www.jorudan.co.jp/>
<http://www.wnn.or.jp/wnn-asia/>
<http://www.coara.or.jp/~ktwbj/> (湯布院見聞録)
<http://plaza.globe.or.jp/gio/index.html> 「地球の歩き方」

* 文学・芸術

<http://www.niji.or.jp/home/yumepage/>
<http://www.incl.or.jp/~takion/> (ギリシャ神話データベース「神聖紀」)
<http://www.freepage.total.co.jp/lighthouse/>
<http://www.geocities.co.jp/Milkyway-Kaigan/6972/>
<http://www.jade.dti.ne.jp/~h-onda/index1.html>
[http://us.imdb.com/More?quotes+Independence+Day+\(1996\)](http://us.imdb.com/More?quotes+Independence+Day+(1996))
<http://www.m21.or.jp/love300/index.html> (女神からのメッセージ LOVE & ART)
<http://plaza16.mbn.or.jp/~mizugaki/> (大伴家持の世界)

* BOOKS

<http://www.trc.co.jp/trc-japa/index.asp>
<http://www.onelook.com/index.html>
<http://www.cs.cmu.edu/books.html>
<http://www.asahi.com/books/index.html> (書評)
<http://www.php.co.jp/book/forum.html>
<http://www.shohyo.co.jp/top.shtml> (書評)
<http://www.ebook.co.jp/>
<http://mag2.tegami.com/mag2/>
<http://www.book-kanda.or.jp/> (古書)
<http://www.kosho.or.jp/> (古書)
<http://www.books.or.jp/> (本を探す)

* エンジン

<http://horn.p.u-tokyo.ac.jp/index-jp.html> (図書館情報学のための検索エンジン)

* データベース集

<http://www.mietsu.tsu.mie.jp/ippei/scripts/index.stm> (A free homepage report index)
<http://www.sam.hi-ho.ne.jp/aiiku/netguide.htm> (NET GUIDE)

http://www.and.or.jp/~kamei/6_law.html (WEB 六法)
 http://ilc2.doshisha.ac.jp/users/kkita/online/ (resources and Journals)
 http://manzoku.topica.or.jp/daicen/ken/ (京都地域大学研究者データベース)

* 辞書

http://member.nifty.ne.jp/~toyoki/pcdic/ (PC dic)
 http://www.si.gunma-u.ac.jp/people/js/s5601088/TEXT/TEXT.HTM (知識の宝庫)
 http://www.benri.com/domain/ (世界のドメイン情報)
 http://home.impress.co.jp/magazine/inetmag/magnavi/jp9612/minibook/ (基本用語辞典)
 http://www.edu.ipa.go.jp/mirrors/togane-ghs/netiquette/terms.html#netiquette (インターネット用語辞典)
 http://pweb.aix.or.jp/~tsuyosh-i/ (コンピューター用語読み方辞典)
 http://www.jeims.co.jp/zayu/ (マルチメディア辞典)
 http://lux01.so-net.or.jp/~viewer/index.html (拡張子辞典)

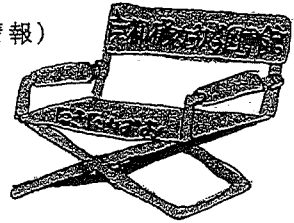
* 図書館 H P

http://vlib.stanford.edu/Overview.html (Virtual Library)
 http://www-student.ulis.ac.jp/virtual-library/subject.html
 http://www.lib.ynu.ac.jp/LINK/library.html (本と図書館に関する情報)

②「送る」ホームページは、自分の作ったホームページです。

* 私のホームページ

http://www2.justnet.ne.jp/~kazuodesu/index.htm (Aphrodite)



②メールマガジンと③E-mailは、機会があれば、書きますが、今回はこれで終わりとし
 ます。是非一度上記リストにアクセスしてみてください。 (Kazuo Takita)

第3回支部委員会の報告

1998年11月10日(火)同志社大学クローバーハウス(午後7時~9時)
 出席:篠原、中嶋、田北、井上、大館 欠席:竹本、呑海

【報告事項】

1. 全国委員会 11月1日(日)

1) 全国大会(29回/新潟)総括

1. 大会関係決算 33万円の残金があり、大会基金に繰入
2. 大会開催マニュアルの必要性・明文化されたものをつくる必要がある。
3. 大会開催地の負担軽減について
 「受付窓口を常任としては」「宿泊を切り離す方式」という提案が出た。

2) 全国大会(30回/東京)について

1. 日程 第一候補8月7日(土)~9日(月)
 第二候補8月21日(土)~23日(月)
2. 会場 宿泊と切り離し、別会場とする。宿泊先は参加者が各自で確保する方式で宿泊先のリストを示すにとどめる。これにより、相当程度実務を軽減出来る見込み。
3. 30回記念大会でもあり、かつて開催されていた記念講演を復活させる。

3) 30周年記念行事について

1. 30周年記念行事の内容を検討するために、全国各地から担当委員を募り検討を進める。その後、実行委員会を組織。3月までに成案を出す。
2. 近畿地区については、2名が割り当てられたので、大阪支部より一名、京都支部より一名を選出することとした。
 *京都支部からは井上委員を担当委員にすることに決定した。

4) 出版関係

来年2月頃、次号(22号)論文集を発行予定。投稿規定を改定し、次回論文集より、レフェリー方式を採用する。査読を依頼されたら、協力されたい。

5) 専門職制度をめぐる案件について

アピールの形式はとらず、「大学の図書館」で問題をとりあげたり、論文集

に酒井氏の執筆を求めたりすることに対応。

6) その他

1. 図書館協会への働きかけ
 - ・会館建設のために3万円を寄付(大会実行委員会名)。
 - ・休日の会館使用を可能にするように要望することを了承。
2. 組織
 - ・名簿改訂版、入会案内改訂版の作成を検討中。
3. 会報の発行
 - ・全般として遅れている。
 - ・11月号、12月号(大会記録号)～12月初旬発送予定

2. 会員情報 ・現在の支部会員数94名

3. 財政情報

- ・1998年度会費納入者 67名
- ・1997年度会費未納者 6名
- ・1996年度会費未納者 1名

【連絡事項】

1. 近畿4支部合同例会(兵庫支部主催)
1月23日(土)「震災文庫について」 ・会場、時間は未定

【審議事項】

1. 京都精華大学情報館見学会 ・10月支部報の案内の内容の確認
2. 春の例会について
 - ・当初の提案のように文化的要素をとり入れた内容とする。
 - ・講師：安斎育郎氏(立命館大学国際平和ミュージアム館長・国際関係学部教授)
 - ・テーマ：「図書館と私」(仮題)
 - *東京大学時代からの関わり、専門の放射線防護学、平和学さらにはマジックまで、先生が関わってこられたさまざまな分野と図書館との関わりを講演していただく
 - ・時期：3月入試シーズン明けにする。
3. 研究集会を含む今後の企画について
 - <A案>「書店システムの可能性」
生協、紀伊国屋、丸善などが提供する発注システムを実際に紹介し、その問題点や可能性を検討してみる。
 - *業者との交渉、プレゼンテーションのための環境が必要
 - *単なる業者の宣伝の機会提供の場となるのは避けたい。
 - <B案>「欧米の図書館事情をさぐる」
大学間ネットワークやコンソーシアムなど、欧米の現在の図書館事情を探ることによって、日本の大学図書館の現状を考える。
 - キーワード ライブラリーコンソーシアム、メタデータ、Z39.50
 - *海外の視察、研修者や来日中のライブラリアンが招聘できればベター
 - <C案>「大学図書館職員論のその後」
「学術司書制度」の提案、アウトソーシングなど図書館職員をめぐる動きはめまぐるしい。他方でインターネットは様々な図書館サービスの可能性を提示しているようにも思われる。そこで会員の様々な経験を紹介し、交流することによって、図書館職員像を検討する。その際、Bとの関連で欧米のライブラリアンの実際が紹介できればベター。
 - *このテーマ自体は昔から常に大学図書館を論じる中で、底流としてあったが、その時々によって、現れ方が違う。おそらく決着がつかない性質のものだと思うが、常に念頭に置いていく必要がある。
 - <D案>「大学図書館のHPを検証」
ほぼ出そろった日本の大学図書館のホームページ。その特徴と今後の発展方向を検討する。
 - *そのほか最近おこなわれていない資料研究もふさわしい企画といえる。
4. 支部報について
5. 次回支部委員会 1998年12月9日(水)

新連載小説 第12回



リ ュ ウ

作 西田 治

そんなある日、また、例の奥様方の訪問を受けた。

「まさかリュウを保健所に引き渡すような残酷なことはしないでしょね。それが心配でお願いにきました」という次第である。先手を打たれて、私と圭子は啞然としてしまった。どうして保健所の話が漏れたのか不思議だった。圭子は淳一に「あんたがいったんだろ！」と嘯みついた。「僕、そんなこというわけない」と抵抗する。すったもんだしたあげく到達したのは、どちらの言い分も正しいということだった。淳一は確かに近所の奥様方には話してなかった。ただリュウに言ったのである。それを誰かが聞いていて、奥様方に伝わり、これは大変だということになったのが真相らしい。

おかげで、私たちは頭を抱えてしまった。私は腰を据えて淳一と話をする以外にないと思った。それで、淳一を呼び、詳しく、辛抱強く話を聞きだした。

結果、分かったことは、リュウが大きくなり体力も強く、淳一が散歩に連れていくと、リュウは、淳一にお構いなく走り回る。淳一はそのリュウに引き回されて、散歩と言うより、かけっこになっているようなのである。これじゃ、淳一も持たないのは当たり前で、従って、淳一はへとへとになり、やっとの思いでリュウを連れて帰ることになる。淳一にとっては、長時間の散歩なんて、とんでもない話である。しかし、自分がリュウを飼うことを言い出した分、責任を感じて今まで黙っていたというのである。私はそういう淳一がいじらしく思えた。そこで圭子とも相談の上、以後リュウの散歩は私が、することにした。圭子も協力すると言ってくれた。

老人の日ともなると残暑も和らぎ、時折、心地よい風が部屋の中に入ってきた。その秋を思わせる風に誘われて、私の中の例の虫が動き出した。整理病という虫である。この虫に取り付かれると私は際限がなくなる。部屋の掃除を念入りに済ますと、今度は棚、机の引き出しの中まできちんとしたくなる。不必要になった書類や小物が沢山あり、私はゴミ袋に放り込んでいく。書類は不要であるかどうか、しっかり見ないといけないので、時間はどんどん過ぎていく。焦ってくる。圭子は、そういう私を、また病気が始まったというような態度で無視している。

「手伝ってよ」と、私は必死で整理に精出しているのであるが、圭子は本棚から本を一冊抜いて、さっさと口もきかずに美穂の部屋に行ってしまった。

書類入れを整理していたら古い預金通帳が幾つか出てきた。使わなくなって10年前後経ている物ばかりである。残高を見ると数百円、最も多いもので四千元程度である。しかし、それは通帳記入が最後のものなのかどうかも不明である。もう印鑑さえ見あたらない通帳もある。実際はもうみんな殆どゼロに近いに違いないと思うと、どうでもいいような気分になり、思い切ってゴミ袋に捨てた。

夕方、「コーヒー入れたよ」という圭子の声に、やっとなりを付けて居間に行った。整理の後のコーヒーは格別だった。なにか充実感あり、何時になく良い気分になった。

コーヒーを飲みながら、庭先の小さな植木が風に気持ちよく揺れているのを眺めていたら、どうしたことか、ゴミ袋に捨てた預金通帳のことが思い出された。すると、だんだん気になってきた。遂に、腰を上げ、ゴミ袋を開けて、通帳を回収した。たとえ僅かであっても捨ててしまうことはないだろうと思っただけからである。付着した汚れを雑巾で拭き、書類箱の中に戻した。圭子はそんな私を見て、鼻で笑った。

夕食を済ませてテレビを見ていたら、また通帳のことが気になってきた。今度は残高のことである。

(次号に続く)

